

学習指導要領	都立第五商業高校 学カスタンダード
A 話すこと・聞くこと ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。 イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。 ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。 エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	話題について、興味関心をもち、調べた内容を参考にして自分の考えをもち、根拠に基づいて自分の考えを話すことができる。 【現代文】 社会問題などについて、新聞を読み、調べた内容を参考にして自分の考えをもちることができる。 目的や場に応じて、分かりやすく適切な言葉で話し、メモを取りながら聞き取ることができる。 【現代文】 授業などで、適切なことばを用いて意見発表し、教師の話やクラス生徒の意見・感想などを、メモを取りながら聞き取ることができる。 相手の考えを理解したり、自分の考えを説明したりして、円滑に話し合いを進めることができる。 【現代文】 グループでの話し合いなどで、相手と自分の意見の共通点や相違点を捉え、話し合いを進展させられる。 自己評価や相互評価を通して、自分の話し方や言葉遣いを見直し、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気づくことができる。 【現代文】 相手や場に応じた言葉の使い方、論の構成などについて、自己や他者の良い点・直すべき点がわかり、多様な考え方に気づく。

	学習指導要領	都立第五商業高校 学カスタンダード
B 書 く こ と	ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。誰に向かって、どのような目的で書くのかを考え、題材や文章の形態にふさわしい文体や語句を用いて書くことができる。	誰に向かって、どのような目的で書くのかを考え、題材や文章の形態にふさわしい文体や語句を用いて書くことができる。 【現代文】 常体と敬体を区別して用い、適切な書きことばを用いて書くことができる。
	イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	【現代文】 序論 - 本論 - 結論という論の構成をもった 600 字程度の文章を書くことができる。 【古典】 与えられた題材について、自分が感じたことや考えたことなどを適切に文章にまとめることができる。
	ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	説明や描写のしかたの違いを知り、相手や目的に応じて表現を工夫して書くことができる。 【現代文】 情景や人物、心情などを、読み手が理解しやすいように的確に書くことができる。
	エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	自他の文章への評価活動を通して自分の表現を見直し、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気づくことができる。 【現代文】 自他の文章で、構成や語句の使い方などの良い点・直すべき点がわかり、自分の表現を豊かにすることができる。

学習指導要領	都立第五商業高校 学カスタンダード
C 読むこと ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	【古典】 古文 ・歴史的仮名遣いに注意して、正しく音読することができる。 ・物語・随筆・日記・和歌などの表現の特色を意識しながら作品を読むことができる。 漢文 ・漢文の基本的なきまり（訓点、再読文字、置き字、句法など）に従って、正しく音読することができる。 【古典】 比較的短く、平易な文章を、基本的な文語のきまりや訓読のきまりに注意して、傍訳などの助けを得ながら読み取ることができる。 【古典】 古文 漢文 作品を読む中で、人物（誰が）、場面（いつ、どこで）、出来事（何を、どうした）を正しく読み取ることができる。 【古典】 ・情景や心情の変化に着目して、作品の展開をとらえることができる。 様々な形態・内容・分野の本や文章を読み、そこから得た情報を参考にし、自分の考えをもつことができる。 【現代文】 様々な形態（文学的な文章・論理的な文章・実用的な文章など）や、幅広い内容・分野（芸術・社会学・自然科学など）の本や文章を読むことができる。読んだ本や文章から、必要な情報を読み取り、自分の考えに生かすことができる。

学習指導要領	都立第五商業高校 学カスタンダード
ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 D 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ 言葉の特徴や決まりに関する事項 (ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。 ウ 漢字に関する事項 (ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。	【古典】 日本の伝統的な言語文化について、基本的な知識を得て、外国の文化への影響に気付くことができる。 ・和歌の修辞・贈答の慣習を知り、三代集（万葉・古今・新古今集）の作品を読む。 ・基本的な古典知識（月の異名、十二支など）を身につける。 ・中国の文字や書物の影響のうち、基本的なもの（故事成語など）を知る。 ・歴史的仮名遣い、基本的な用言の活用、基本的な助動詞（「ず」、「けり」、「む」など）、係り結び、敬語などを理解する。 ・訓点や基本的な再読文字（「未」、「将」など）、置き字（「於」、「而」など）、句法（否定、疑問など）を理解し、訓読したり、書き下し文に改めたりすることができる。 【古典】 ・歴史的仮名遣いを理解して、古文を正しく読むことができる。 ・基本的な古今異義語（「うつくし」、「をかし」など）の意味の相違を理解する。 【古典】 ・基本的な古語（「つれづれ」、「わろし」、「いと」など）40 語程度の意味を知る。 ・基本的な漢語（「不」、「之」、「也」、「已」など）20 語程度の意味を知る。 【現代文】 中学校までの学習範囲である漢字検定3級レベルまでの漢字の復習を早期に完了し、準2級・2級レベルの漢字学習を進め、検定試験受験を促す。

